

フクロウカフェの元スタッフから内部告発 全文

2017/02/05

※特にニュースリリースはしていないが、ロイター通信/the dodo/BIGLOBE ニュース/おたくま経済新聞/ライブドアニュース等が取り上げました

営業中も閉店後も同じ場所につながれたまま

フクロウカフェで 2015 年から 2016 年にかけて働いていました。

そこはフクロウを見たり触ったりして飲み物も飲めるサービスを提供しており、約30羽のフクロウを飼育・販売しています。

フクロウ達は足にリーシュと呼ばれるヒモをつけられており、限られた空間でしか動き回ることができない環境で毎日過ごしています。フクロウは環境が変わるといけないという理由から、休憩中や閉店時でも営業中と同じ場所でリーシュを繋いだままいます。

個体の大きさで差がありますが、小型種で30cm×30cmほど、大型種で100cm×100cmほどの面積でしか動き回れません。もしお客様から触られたくない場合、フクロウは目を瞑ったり壁に向かってお客様に背を向けるような体勢で我慢するしかありません。ホームページなどでフクロウ達に休憩を設けているように記載されていますが、実際は体調が悪いフクロウ以外は休憩なしで営業中の10時間の間、お客様に触られ続けられます。

休憩を取らせることがあってもバックヤードに移動させることはせず、フクロウはずっと同じ場所にいます。ただお客様に触らせないだけで、カメラで撮影することもでき、ずっと人の目に触れることになります。

糞尿が増えるため、水を与えない

営業中に水を与えることはほとんどなく、夏場の暑い季節に水を飲ませることは数えるほどしかありませんでした。

水入れも設けていないため、自発的にフクロウは水を飲みません。

水を与えなかったのは、糞尿の量が増えるからです。また人手不足で水を与える時間もありませんでした。

暑さで息が荒くなることもありました。フクロウは喉が渇くとクチバシの下がポコポコと出たり入ったり動くのですが、その時も水を与えることはありませんでした。

次々と死んでいくフクロウ

私の働いていた1年ほどの間で7羽のフクロウが亡くなっていきました。ホームページ上で「お迎えが決まりました」となっているフクロウのほとんどは亡くなってしまったフクロウ達です。

亡くなる前のフクロウには、明らかではないものの目に見てわかる異変がありました。片足で過ごさず1日中両足で止まり木に止まっている、目を瞑っている時間が多くなりずっと寝ているように見える、肩で息をしている・息づかいが荒い、私が分かった異変は特にその3点だったと思います。

オーナーは始めはフクロウが死んでいくのをただ見てただけで病院へも連れていっておらず、フクロウが何羽も死んでいくので、途中から病院へ連れていくようになりました。営業中に体調が悪くても、「お店があるから病院に連れていけない」と言って営業することを優先しており、病院に連れていくことはなくそのまま死んでいきました。また素人判断で、「この状態ならもう助かることはないだろう」と言って、治療をしようとか治ることに望みをかけるようなことはありませんでした。病院に連れていくようになってからも、死にかけているから連れていくような感じでした。

死んでしまったフクロウはほとんど店の裏にある空き地に埋めて処分し、原因を突き止めたりすることはありませんでした。またオーナーが気に入っていたフクロウは剥製にすることもしていたようです。フクロウが死んでしまえば、新しくまたフクロウを補充してを繰り返していました。

フクロウカフェでは、なかなか見ることでできない珍しい種類のフクロウがいると集客が上がります。そのなかには海外で乱獲されたフクロウもいたようです。オーナーは「こんなフクロウは飼おうと思っても日本にいるはずない」「卵のときに巣からとってくるんですよ」ということを客に話していました。オーナー自身、色々なフクロウを集めたいという所有欲のために、フクロウを買ってくるような所もありました。オーナーが「乱獲されたフクロウ」と言っていた子は、私の働いていた店では少なくとも3羽いました。

その他にも、保健所の目を誤魔化して衛生上問題のある営業していたところも見受けられます。

店内のお茶を飲むスペースとフクロウを展示するスペースは分けていなければいけないはずなのですが、フクロウがお茶をしながらよく見えるよう、間に設けなければならないパーテーション(仕切り)をせずに営業したり、またフクロウのエサであるウズラやネズミを扱う流し台でお客様に提供する飲み物を扱っていました。

我慢して、死の寸前まで生きようとするフクロウたち

フクロウは見た目も愛らしく、まっすぐ人間の目を見つめてきてとても魅力のある生き物だと思います。私自身、その店で働いていた間、フクロウを見ていて飽きるなんてことなく、毎日新しい発見がある日々を過ごしました。

ですが、もともとフクロウは森のなかで静かに暮らしている生き物で、照明がありBGMのかかるカフェの空間にいるというのは、それだけでストレスなのではないでしょうか。また、見知らぬ人間に触れられるという点においてもやはり、フクロウ達には過度のストレスになると思います。

フクロウカフェのフクロウ達が、小さい頃から刷り込みをされて人間に慣れているとはいえ、まるっきり人間の環境でよい、いくら触ってもよいということはありません。人間の心の癒しのために毎日身を粉にしていると思うと、やり過ごすことはできません。

動物は本能的に、体調が悪くてもそのような素振りは見せません。死んでいったフクロウ達もそうでした。

死んでいったフクロウの中には、急に止まり木から落ちて倒れるような形でそのまま死んでいった子もいましたが、倒れたときにはもう身体は固く冷たくなり始めていました。本当にギリギリまで我慢していたんだと思います。死ぬ間際まで生きようとし、平常を取り繕っていたのです。

ですが、人間の目で見ると全くしんどいことが分からないことはないのです。特にフクロウカフェのフクロウは何羽もいますし、他の個体と見比べてやることをしたら、ペットの個体よりも異変は分かりやすいと思います。

お客様は動物が好きな方がほとんどで、帰るときには「可愛かったです」「とても癒されました」ということを言ってくれます。ですがやはり「こんな狭いスペースで、足にヒモを付けられてずっといるなんて可哀想」であるとか「こんなに明るい照明で大丈夫なんですか？」と言われる方も大勢いらっしゃいます。

きっとお客様のほとんどは「フクロウカフェをするためにはフクロウの事を勉強してるし、生体の扱いに気を配っている」そういう風に思っているからだと思います。ですが実際は違うのです。

やはり、フクロウ達を拘束しふれあいをさせ、過度なストレスをかける猛禽類カフェは無くなっていった方がよいのだと、私は思います。

魚の痛みと感情

魚はダメージや損傷を検知できる

麻酔をかけたマスの神経組織を切り取り研究することで、魚が侵害受容(ダメージや損傷の検知)体を持っていることが、あきらかになっている。*1

魚は痛みを感じ苦しむことができる

- 魚に苦しむ能力がないとする確たる根拠は見つかっていないが、魚が苦しむという証拠は豊富にある。*1
- 情動をつかさどる大脳辺縁系にあたる部分が魚類にはある。ダメージや損傷があった時の魚の行動は、注意散漫になったり、損傷部分をかばったり、異物を取り除こうとしたり、食欲が低下することがわかっている。さらに、痛みを和らげるモルヒネを投与すると、注意力を取り戻し、通常の行動を取ることが可能になる。*1
- 閉じ込められたときにストレスを経験する。*2
- 金属製のフックで口を突き刺され水中から引きずられた魚は、痛みやストレスが大きくなります。研究では、彼らが殺されずに戻された場合、再び捕らえられることはないようにするということが分かっています。*3
- 「解剖学的、心理学的、生物学的に、魚の苦痛のシステムは、鳥や哺乳類と同一」英国政府への科学的な助言者である Donald Broom 博士
- カナダ Guelph 大学の調査チームは、魚の痛みや知性の科学文献を調査し「魚は痛みを感じる」という結論に至った。

魚には感情があり、仲間を認識し、私たちと同じように社会的な生活を送る

- 魚は他の魚を認識して覚えており、複雑な社会を構築しています*5。
- いくつかの魚は鳥のようにさえずり、警戒音を出してお互いを呼び合います*6。
- 水族館に拘束された魚は、タンク内の水ポンプの流れに乗って遊ぶ(恐らく退屈をまぎらわそうとしている)。*4
- 仲間のそばにいたがるマス
2/3の区間は電撃が流れず、1/3の区間は電撃が流れる水槽で一匹だけマスを飼育する実験で、マスは当然電撃の流れる区間を避けて泳ぎますが、電撃の流れる区間の向こう側に仲間のマスの入った水槽を配置したとき、このマスは、電撃の流れる部分にとどまり、仲間のそばに居ることを選択する。*1
- ウツボとハタの共同狩り
ハタは追いかけていた獲物がさんご礁の入り組んだ迷路に入り込んでしまったとき、ウツボを呼びに行く。ウツボのいる穴の前まで行って頭を上下になんども激しく振り『狩りに行こう』の合図をおくる。するとウツボはそれを無視することもあるが、たいてい穴の中から出てくる。ハタはウツボを先導して、獲物を見失った、さんご礁の前まで連れて行き、そして進入すべき穴に口をつっこみ『ここだ』とウツボに指し示す。するとウツボは穴に入り込んで獲物を探しはじめる。ウツボがうまく穴から獲物を追い出してハタが食事にありつくこともあるが、ウツボが穴の中で獲物を独り占めすることもある。『今回は君に』『今回はこっちのもの』と、トータルでそれぞれ2回に1回食事にありつけるという体制になっているようだ。*1
- いくつかの魚は道具を使い、巣を作り、そして場合によっては霊長類の学習能力を上回る優れた能力を習得することができる。彼らは口からジェット噴水のように水を吐き出し水面にいる昆虫を捕まえる。そして貝を砕くために石を使う。海底にシェルターを作り、卵を守るために巣を作ったりもする*7。
- 「魚にも人の顔が区別できる」英オックスフォード大学と豪クイーンズ大学の共同研究発表*8
われわれの目から見れば、それぞれ異なって見える人間の顔。鳥類にもその違いを認識できるという研究結果があっ

たが、新たな研究から、魚にもそれが可能だということがわかった。

研究チームが訓練したテッポウオは、多数の人間の顔のなかから、学習させた人の顔だけを正確に判別し、水鉄砲をぶつけて当てることができたという。

- 2014年6月 オーストラリアの生物学者は次のように言っている。「ほとんどの人は、魚を観賞用として、あるいは食べ物としてしか考えていません。しかし魚は他の動物と同等の感情と知性を持っており、彼らの福祉はおおいに考慮に値するものです。」*9

参照

*1 「魚は痛みを感じるか？」ヴィクトリア・ブレイスウェイト

*2 Pottinger, T., Prunet, P., & Pickering, A. (1992). The effects of confinement stress on circulating prolactin levels in rainbow trout (*Oncorhynchus mykiss*) in fresh water. *General and Comparative Endocrinology* 88(3), 454-60.

*3 Raat, A. J. (1985). Analysis of angling vulnerability of common carp, *Cyprinus carpio* L., in catch-and-release angling in ponds. *Aquaculture Research*, 16, 171-187.

*4 Burghardt, G. M., Dinets, V., & Murphy, J. B. (2014). Highly Repetitive Object Play in a Cichlid Fish (*Tropheus duboisi*). *Ethology*, 120, 1-7.

*5 Grosenick, L., Clement, T. S., & Fernald, R. D. (2006). Fish can infer social rank by observation alone. *Nature*, 445, 429-432. / Balcombe, J. (2016). In praise of fishes. *Animal Sentience* 2016.095.

*6 <https://www.newscientist.com/article/2106331-fish-recorded-singing-dawn-chorus-on-reefs-just-like-birds/>

*7 Salwiczek, L. H., Pretot, L., Demarta, L., Proctor, D., Essler, J. et al. (2012). Adult Cleaner Wrasse Outperform Capuchin Monkeys, Chimpanzees and Orang-utans in a Complex Foraging Task Derived from Cleaner – Client Reef Fish Cooperation. *PLoS ONE*, 7(11), e49068.

/ Wohl, S., Griebisch, M., Klostermeier, & Ina. (2006). Animal Cognition: How Archer Fish Learn to Down Rapidly Moving Targets. *Current Biology*, 16, 378-383. / Brown, C. (2012). Tool Use in Fishes. *Fish and Fisheries*, 13(1), 105-115. / Reefs, S. G. (2009-2013). Can fishes

build things? Retrieved Nov. 10, 2016, from How Fish Behave: <http://www.howfishbehave.ca/pdf/can%20fish%20build%20things.pdf>

*8 魚にも人間の顔が見分けられる:研究結果(WIRED 2016.7.20) <http://wired.jp/2016/07/20/face-can-recognise/>

*9 Fish feel pain too: Expert the daily telegraph

<http://www.dailytelegraph.com.au/news/breaking-news/fish-feel-pain-too-expert/story-fni0xqlk-1226959336032?nk=30cdc69291819d036a590f70d5c21ec2>

Animals Australia 5 amazing facts that'll change the way you think about fish

<http://www.animalsaustralia.org/features/fish-facts.php>